

○ 修復、複製物作成の計画的な実施の在り方

- ・ 利用状況、劣化状況等の情報を基に、どのように優先度を判断し、長期的な計画を立てるべきか。
- ・ プロセス管理・資料全体の状況把握のための仕組みとしてどのようなものが望ましいか。

○ 修復機能とデジタルアーカイブ機能の連携の在り方

- ・ 修復業務とデジタル化業務を連携して効率的に進めるためには、どのような業務の流れが望ましいか。
- ・ 理想的な業務の流れを実現するために、どのような施設の配置が適当か。

○ デジタル化後の資料の取扱い

- ・ デジタル化済みの資料について、将来的な災害発生の可能性も視野に入れ、どのような方針で保存・管理することが望ましいか（保存継続の有無（特にマイクロフィルム）、保存場所など）。